



〒030-0180
青森市第二問屋町3丁目1番89号
東奥日報社
電話 017-739-1111
©東奥日報社 2006

八戸のミニ巻き網船団 操業1年 効率経営に成果



漁業の経営改善に向けた取り組みとして、注目を集めている「第88窓宝丸」＝昨年3月、八戸港

2隻体制で経費抑制

国の規制緩和を受け、八戸市の福島漁業が建造した「第88窓宝(そうほ)丸」(三〇〇ト)を本船とする国内初のミニ巻き網船団は昨年三月の進水以来、一年間で、魚価下落などにより水揚げ金額が六億六百万円と伸び悩んだのに対し、経費を八億三百万円に抑えることに成功した。隻数を減らしたミニ船団化の効果で、漁船経営の効率を大きく高めた。

同社の福島哲男社長が「本水産会が東京都内で開船経営、造船、流通など十三日、社団法人・大日 催する会合で、国内の漁

の水産関係者に報告する。少量漁獲でも経営を成り立たせようという取り組みに、資源減少に苦しむ業界から注目が集まりそうだった。
従来の巻き網船団は網船、魚群を探し出す探索船、二隻の運搬船による一カ統四隻体制が主流だった。国の規制緩和により網船の上限が一三五トから三〇〇トに引き上げられたことを受け、同社は網船、探索船、運搬船の機能を併せ持つ「第88窓宝丸」を建造。運搬船一隻と合わせて一カ統二隻体制のミニ船団とし、

昨年三月に操業を開始。主に、八戸港にサバ、石巻港(宮城県)にカツオ、

サバなどを水揚げしていた。同社によると、従来の四隻体制では計五十人前後の乗組員が必要だったのに対し、ミニ船団の二重になったが、経費を上回

で削減。人件費に加え、燃油代、修繕費なども抑えることができた。この一年は前年に比べ三割前後の魚価安、燃油高騰、近海マグロの不漁などが重なり、将来は年間七億円から七億五千万円の水揚げ金額で、船の減価償却な

る水揚げを達成した。同社の福島全良専務は取材に対し、「最初の一年としては上々の成果。操業の練度も向上しており、将来は年間七億円から七億五千万円の水揚げ金額で、船の減価償却な

どを含めた採算ラインに乗ると見込んでいる」と話している。従来の四隻体制では、年間十一億円前後の水揚げが必要だったという。